

駆除の成果上々

クラゲ「クラッシュャーポンプ」

深浦漁港で実証試験

県定置漁業協会（西
崎義三会長）は2日、

深浦町の深浦漁港で水
中ポンプを使った大型
クラゲ駆除機器の実証
試験を行った。クラゲ
を吸い込み、カッター
で碎いて排出する仕組
みで、試験結果は良好
だった。同協会は本格
的な普及を目指し、国
の補助を得られるよう
関係機関に働きかけ
る。

同協会、県漁連など
関係機関から約100

人が立ち会った。同協
会と共同開発した道南
鉄工（大間町）の長谷
龍二代表取締役が機器
の特徴を説明した。

「クラッシュャーポン
プ」と名付けられた機
器はステンレス製で、
直径約90センチのラッパ状
の吸い込み口に刃付き
のプロペラを備える。

吸い込んだクラゲを切
断し、ポンプで海水と
ともに排出する。

動力は油圧で、本県
小型漁船の既存設備で
使用できる。最大処理
能力は1分間当たり約
5ト。2〜3時間かけ
人力でクラゲを切断し
網の外へ捨てる従来の
方法に比べ、大幅に作
業が省力化され作業時
間が短縮できる。

実証試験では海面に
浮かせた機器にクラゲ
が次々と吸い込まれ、
短時間で10〜15センチほ
どの細切れになり、ホー
スから排出されること
が確認された。

同協会は定置網のク
ラゲを駆除することで
他の漁法の被害も軽減
できると期待する。西
崎会長は「クラゲを速

く駆除できるので、魚
の鮮度を落とさず販売
できる。有害生物漁業
被害防止総合対策の対
象となるよう国、全漁
連に働きかけ、多くの
会員が導入できるように
努力する」と話した。

【写真上】試験では大型クラゲが細切れになり排出されたことを確認した【同下】吸い込み口にカッターを備えたクラッシュャーポンプ

